

株式会社京都産業振興センター

第1 法人の概要

1 代表者

代表取締役社長 山本 達夫

2 所在地

京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

3 電話番号

075-762-2633

4 ホームページアドレス

<https://www.miyakomesse.jp/> (京都市勸業館)

5 設立年月日

平成5年4月27日

6 資本金

90,000千円 (うち本市出資額 54,000千円, 出資率 60.0%)

7 事業目的

京都市勸業館の管理運営, 展示会, 見本市等の企画開催及び誘致ほか

8 業務内容

- (1) 京都市勸業館の管理及び運営
- (2) 京都伝統産業ミュージアムの管理
- (3) 展示会, 見本市等の企画開催及び誘致

9 所管部局

産業観光局クリエイティブ産業振興室 (TEL075-222-3337)

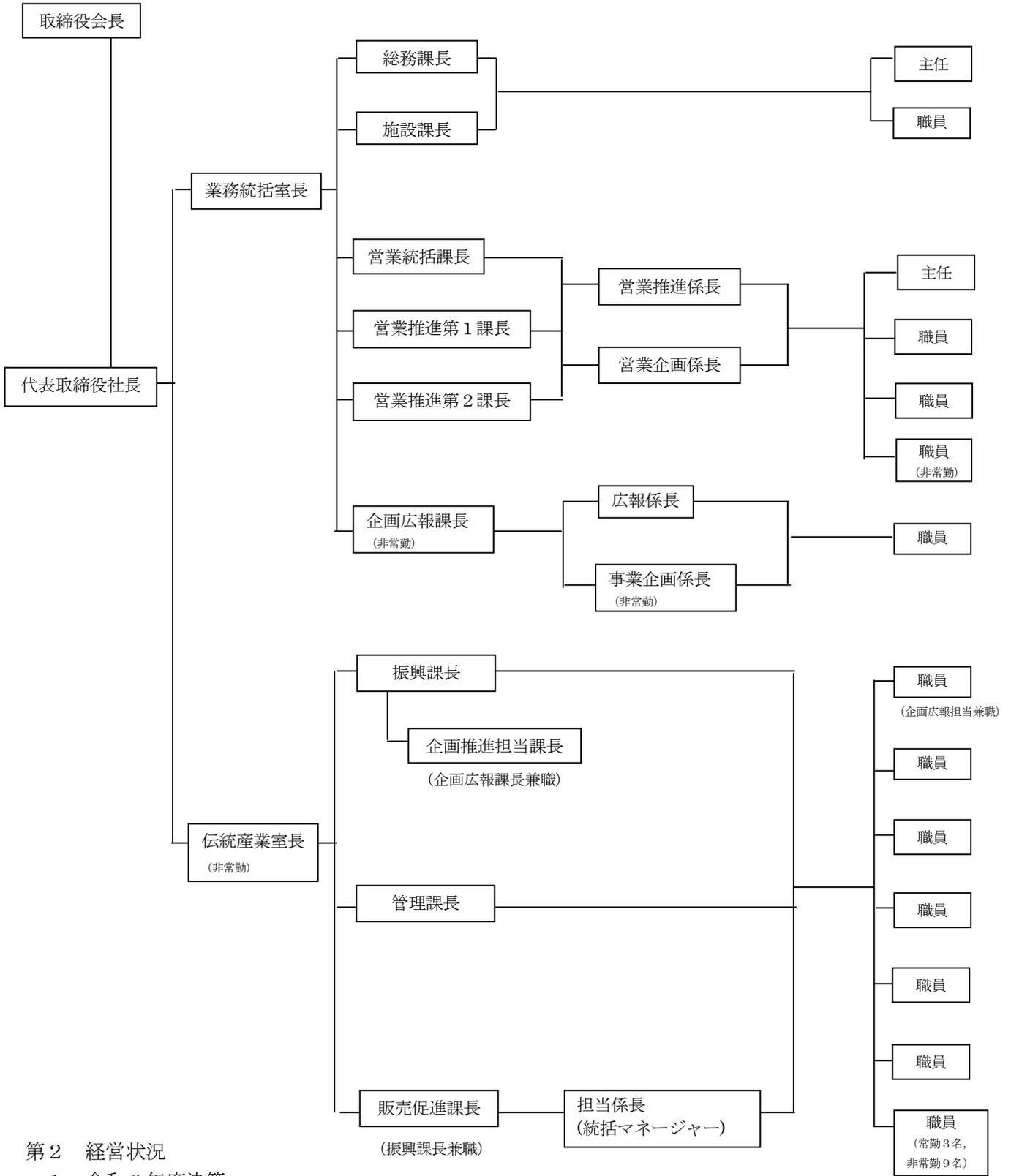
10 役員名等

- (1) 取締役会長
北村信幸 (京都市産業・文化融合戦略監)
- (2) 代表取締役社長
山本 達夫
- (3) 取締役
上林秀行, 兒島宏尚, 田中雅一, 林 史己, 松村孝之, 坂本 勝,
山口 薫 (産業観光局クリエイティブ産業振興室長)
- (4) 監査役
外村弘樹, 川越とし子

11 常勤職員数

26人 (うち本市派遣職員1人)

12 組織機構



第2 経営状況

1 令和2年度決算

(1) 事業報告

ア 京都市勸業館の指定管理

(ア) 展示場の利用状況
面積稼働率 20.26%

(イ) 会議室の利用状況
稼働率 18.67%

イ 京都伝統産業ミュージアムショップの運営

ミュージアムショップ商品売上 9,521 千円（消費税等除く。）

ウ 美術工芸ギャラリー（勸業館内）の運営

稼働率 21.42%

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための休館の状況

- ・展示場，会議室，美術工芸ギャラリー 4月9日から5月31日まで
- ・駐車場 4月29日から5月15日まで
- ・京都伝統産業ミュージアムショップ 4月9日から5月19日まで

(2) 財務諸表

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	[755,314]	流動負債	[319,993]
現金及び預金	656,299	買掛金	1,147
売掛金	423	未払金	240,229
商品	680	未払消費税等	0
前渡金	93	未払法人税等	90
未収消費税	18,339	未払費用	0
未収還付法人税等	9,019	前受金	69,783
未収入金	70,611	預り金	1,664
貸倒引当金	△149	賞与引当金	7,079
固定資産	[46,038]	固定負債	[63,289]
(有形固定資産)	(45,113)	退職給付引当金	23,289
建物	27,694	長期借入金	40,000
構築物	1,787		
器具・備品	7,575	負債合計	383,281
その他の有形固定資産	3,129	純資産の部	
建設仮勘定	4,928	株主資本	[418,070]
(無形固定資産)	(905)	資本金	(90,000)
電話加入権	306	利益剰余金	(328,070)
ソフトウェア	600	利益準備金	180
(投資その他の資産)	(20)	その他利益剰余金	0
出資金	20	付帯設備改善積立金	50,000
		25周年記念事業積立金	13,000
		別途積立金	320,000
		繰越利益剰余金	△55,110
		純資産合計	418,070
資産合計	801,351	負債及び純資産合計	801,351

損益計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：千円)

科 目		金 額	
【経常損益の部】			
(営業損益の部)			
売上高			449,705
売上原価			174,104
	売上総利益		275,601
販売費及び一般管理費			385,366
	営業利益		△109,765
(営業外損益の部)			
営業外収益			
受取利息及び配当金	204		
その他	12,304		12,509
営業外費用			
その他	281		281
	経常利益		△97,538
【特別損益の部】			
特別利益			189,297
特別損失			220,458
	税引前当期純利益		△128,699
	法人税，住民税及び事業税		180
	過年度法人税		△5,023
	当期純利益		△123,676

株主資本等変動計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益剰余金				利益 準備金		
			その他利益剰余金						
			付帯設備 改善積立金	25周年記念 事業積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金			
前期末残高	90,000		180	50,000	3,000	320,000	78,567	541,747	541,747
当期変動額									
剰余金の配当								0	0
剰余金の配当に伴う利益準備金の積立								0	0
積立金の積立					10,000			10,000	10,000
積立金の取崩							△10,000	△10,000	△10,000
当期純利益							△123,676	△123,676	△123,676
当期変動額合計	-	-	-	-	10,000	-	△55,110	△45,110	△45,110
当期末残高	90,000	-	180	50,000	13,000	320,000	△55,110	418,070	418,070

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H30 (決算)	R1 (決算)	R2 (決算)
損益計算書	売上高	698,551	696,408	449,705
	経常利益	26,769	23,684	△97,538
	当期利益	11,465	14,045	△123,676
	減価償却前利益	17,323	20,313	△115,707
貸借対照表	総資産	732,716	752,070	801,351
	総負債	205,015	210,323	383,281
	純資産	527,701	541,747	418,070

(参考2) 京都市からの補助金等

なし

※ 京都市勧業館の指定管理（公募）は利用料金制のため、委託料はなし

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4,5月の緊急事態宣言発令に伴う全館休館や、年度を通して催事・イベント開催等が自粛されたことにより、展示場利用が大幅に減少したこと等に伴い、施設利用料収入のみならず、ミュージアムショップの売上や駐車場利用料収入も大幅に減少し、会社全体の売上高及び営業利益は昨年度比で大幅な減少となった。</p> <p>最終的な収支は開館以来最大の赤字となったものの、管理費の削減や人件費の抑制等、約1億円のコスト削減を行っている点について、経営努力を評価できる。</p>
事業面	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4,5月の緊急事態宣言発令に伴う全館休館や、年度を通して催事・イベント開催等が自粛されたことにより、展示場稼働率は開館以来最低の20.26%に留まった。</p> <p>しかしながら、ウィズコロナ時代に即した対応として、換気性能の向上や加湿器の導入、サーマルカメラの設置等のハード整備を行うとともに、大規模催事開催時の看護師配置やハイブリッド型会議・オンライン会議への対応強化等の催事開催支援に積極的に取り組まれており、展示場稼働率の向上に向けた取組を着実に推進されている点が評価できる。</p>

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

コロナ禍の中、往来自粛やイベント開催制限等で、勧業館の稼働率が大きく減少するなど、経営状況が悪化し、最終損益は赤字となった。

当団体は令和2年度末までに「自律化（非外郭団体化）」を図る予定であったが、こうした状況の中、本市出資金の返還が困難となったため、自律化（非外郭団体化）が達成できていない。

経営状況が悪化したとは言え、6.6億円の現預金を有し、流動比率も236%となっており、京都市の極めて危機的な財政状況を踏まえると、団体からの出資金返還金は非常に重要な財源であることから、新型コロナウイルス感染症の動向は踏まえつつ、勧業館の展示場稼働率の向上など、更なる経営状況の改善により、可能な限り早期の職員派遣（研修派遣）の引上げ及び自律化（出資金の返還）を実現できるよう努めていただきたい。